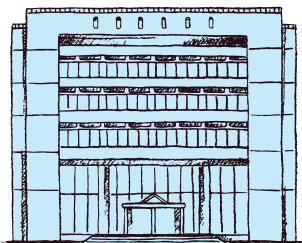


西南学院大学

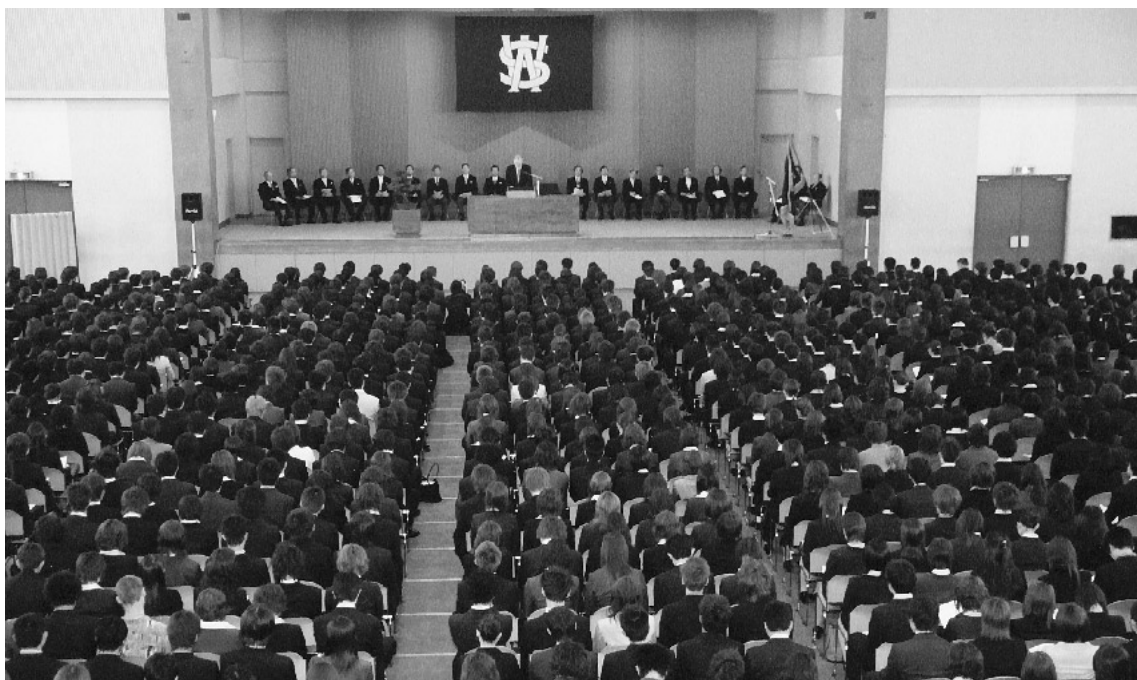


図書館報

No.

154

2003.4



目次

職人と物の心 図書館長 尾上 修悟 2

「図書館雑感」 元図書館長 川上宏二郎 3

西南学院大学図書館ホームページの解剖
図書館情報サービス課 相田美美子 4

大学生のときに読んで心に残った本
Edward T. Hall (1959).
"The Silent Language" (Doubleday)
文学部教授 今堀 義 7

雑誌『學鐙』より 幸田文『ひのき』
文学部講師 門田 理世 7

『パリは燃えているか? (PARIS BRÔLE-T-IL?)』
経済学部助教授 是永 隆文 7

井上ひさし著『吉里吉里人』
法学部助教授 富田 麻理 7

お知らせ・編集後記 8



職人と物の心

図書館長 尾上 修悟

イタリアにクレモナという町があります。そこは、歴史的に世界で最高と謳われた名ヴァイオリン（ストラディヴァリウスに代表されるような）が製作された所として有名です。クレモナはヴァイオリンの代名詞になっているほどなのです。私はある時、かつての日本で著名なヴァイオリン製作者に、なぜクレモナであれほど多くの名ヴァイオリンが作られるのかを尋ねたことがあります。私自身は、おそらくそこは乾燥していて、ヴァイオリンを作る上で最適の自然環境を備えており、それゆえにすばらしいヴァイオリンが作られるのだと思っていました。ところが、その予想は見事にはずれたのです。その製作者が実際にクレモナに行ってみると、そこは多湿地帯で、ヴァイオリンを作るにはむしろ最悪の環境であった、ということです。では、なぜ名ヴァイオリンがそこで生れるのかというと、クレモナの職人には、名ヴァイオリンを作る心があるから、ということがわかった、とその元製作者は話してくれました。私は、その話を聞いて、今までの謎が氷解した思いがしました。

では、そうした職人の心は、クレモナのヴァイオリン製作者にのみ宿っているのか、といえはけっしてそうではありません。おそらく、その心は古今東西変わらぬものなのではないでしょうか。もちろん、日本にも、歴史的に限りなく多くの職人の心によってすばらしい物が作られてきました。いや、むしろ日本こそ世界最大の職人の国であった、と言っても過言ではありません。かつて、大衆の職人の芸を民芸と名付けた柳宗悦氏は、日本を「手の国」と称しました（「手仕事の日本」）。たしかに、日本語には、手に因んだ言い方が数多くあります。それだけ日本人は、手に思いを込めていたのでしょう。そして、その手に職人の心を宿して名品を作ってきた、と思うのです。

ところで、日本人が手に心を宿して物を作ってきた姿勢は、物の本質の捉え方にも反映されているようです。西洋人の間では永らく、物の本質は普遍的なものとして、きわめて抽象的に捉えられてきました。これに対して、東洋人の中でも日本人は、物の本質を非常に特殊な仕方では把握してきたようなのです。東西の思想に精通し、イスラム文化研究の世界的権威であった井筒俊彦氏によれば、日本人は、物に直接手に触れることによって

その本質を知ることができた、というのです（「意識と本質」）。また、そうすることによって、日本人は物に潜む心を察知してきたのです。われわれ日本人が、潜在的に物を崇める気持を強く持っているのは、そうした物の心を感じとることができるからではないでしょうか。物の心は、いうまでもなく、職人の心を反映しています。物を崇める気持は、結局、その物を作った職人を崇拝する念に通じるのです。

職人の究めるべき道を、柳宗悦氏は3つ指摘しています（「民芸四十年」）。それらは、自力道、他力道、そして相愛道、であります。これらの道は、それぞれ、修行、帰依、協団、に対応します。あるいはまた、それらは、内省、信仰、生活、と言い換えることができます。職人はまず、自らを鍛え、技を磨かなければなりません。しかし、このようにして確立された自己を専ら主張するだけでは、けっしていい物はできません。そこでは、いったん自己を捨てる必要があるのです。物が神がかってくるのは、その結果と思われます。それこそが、真の“物神性”なのです。さらに、職人は、ひとりよがりでは物を作るではありません。かれらは、相愛的な共同生活の中で、あくまでも生活の中で使われるべき物を作るように努めます。このようにして作りあげられた物は、現代の工業主義の中で大量生産された、粗製乱造の物とは決定的に異なっています。職人の心の宿った手作りの物に触れれば、自然とそれらの物を大事にしたい、と思うのではないのでしょうか。大量生産・販売に根ざした現代資本主義は、はっきりと行き詰まりを見せています。新しい経済システムを構築するためにも、われわれはもう一度、この職人の目指した物作りの方法を見直すべきである、と考えるのです。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが、これから有意義な大学生活を営むために、以上に見た3つの職人道は、示唆に富むものとなるでしょう。そこでまず、自らを鍛えるためにも、ぜひとも読書の習慣を身に付けて欲しい、と思うのです。ショーペンハウエルは、人生は短かいので、悪書を避けて良書を選ぶことを勧めています（「読書について」）。大学生活を進める中で、皆さんが、できるだけ多くの良書に出会えることを願って止みません。



「図書館雑感」

元図書館長 川上 宏二郎

1 【図書館の利用】

中、高校時代から続いてきた私の学校図書館や国公立図書館の利用は、半世紀以上になる。その中で大部分を占めるのは、「大学」図書館である。なにさま学生時代だけでなく教員時代を通じてのものだからである。

よく新入学生に、小、中、高校における「児童・生徒」と大学における「学生」とは、その質を全く異にする・よくそのことを弁えるように、と注意を促すことがある。このことを目のあたりに実感するものの一つが、「大学」図書館である。学部によっては、新入生に「図書館ツアー」なるものを実施しているところがある。実施後に提出された感想文をみると、たいいてい新入学生は、高校時代の図書館とは量的にも質的にも段違いであること、そのことに驚いたこと・圧倒されたこと、を書いている。

2 【大学図書館の意義】

大学図書館はその大学の心臓であり、バロメーターである。よその大学を訪問するとき必ず見せてもらうのが、その図書館である。現在は情報処理関係の施設などに目を奪われることが多いが、本筋はやはり図書館である（図書館が同時に情報センターであることもある）。

大学図書館は、大学の中でも一つの王国を形成する。時代により国によっては、触れることのできない聖域に近い存在として君臨していたものもある。もちろん当初は「文書館」として存在したが、それでもそれは国王の権威を示すものであったといわれる。

したがってその長は、特別会計として計上される財政を自己の権限として運用し、そこで働く職員の人事権を行使していた（任免していた）ことさえある。本学の「図書館規程」の中にも、それらしいものの痕跡が、いくつか見られる。

3 【大学図書館と真理】

大学図書館はなぜそれほどまでに権威づけられるのか。それは大学図書館が「真理探求の殿堂の中核」と性格づけられるからであろう。

かつて留学したドイツの大学の図書館の玄関の上に、「Wahrheit macht Sie frei」という文字がかかっていた。思わずこの言葉にしばれたことを思い出す。ちなみにL. K. シート院長および宗教部のご教示によると、「ヨハネによる福音書」第8節32章に、キリストの言葉として、「the truth make you free」というのがあるとのことである。ドイツのは多分これを基に

したものであろう。この福音書には「真理」の言葉が多く出る。

これをどのように訳すか。「(一般に) 真理は人を自由にする」と読むのか、「真理(こそ)があなたがたを自由にする」と読むのか。「は」か「が」かである。図書館に入り図書を読んで真理を追求する者の側からすると後者のようである。図書館の図書に埋もれてみよ、そこに汝自身の自由が生まれる、というわけである。

4 【図書館と邯鄲の夢】

学生時代の図書館の利用について、よく連想的に思い出されるのは、中国の話「邯鄲(かんたん)の夢[枕]」である。勉強していつ目蓋が重くなることがある。すーっと眠りに入っていく。ややあつてはっと眼が覚める。中国のこの物語は、自分が夢の中で富貴を極める身分になる・しかしそれはほんの短い時間のことであった、という話であるが、私の場合も富貴は別としてこれに近く、一瞬のまどろみである。ついでにいうと目覚めたとき耳に入る周りの音ならぬ音・つまり人の気配がありながらシーンとした静寂、その中にかすかに本をめくる音、この雰囲気はえもいわれない心地を誘う。日本版館端の醒めである。

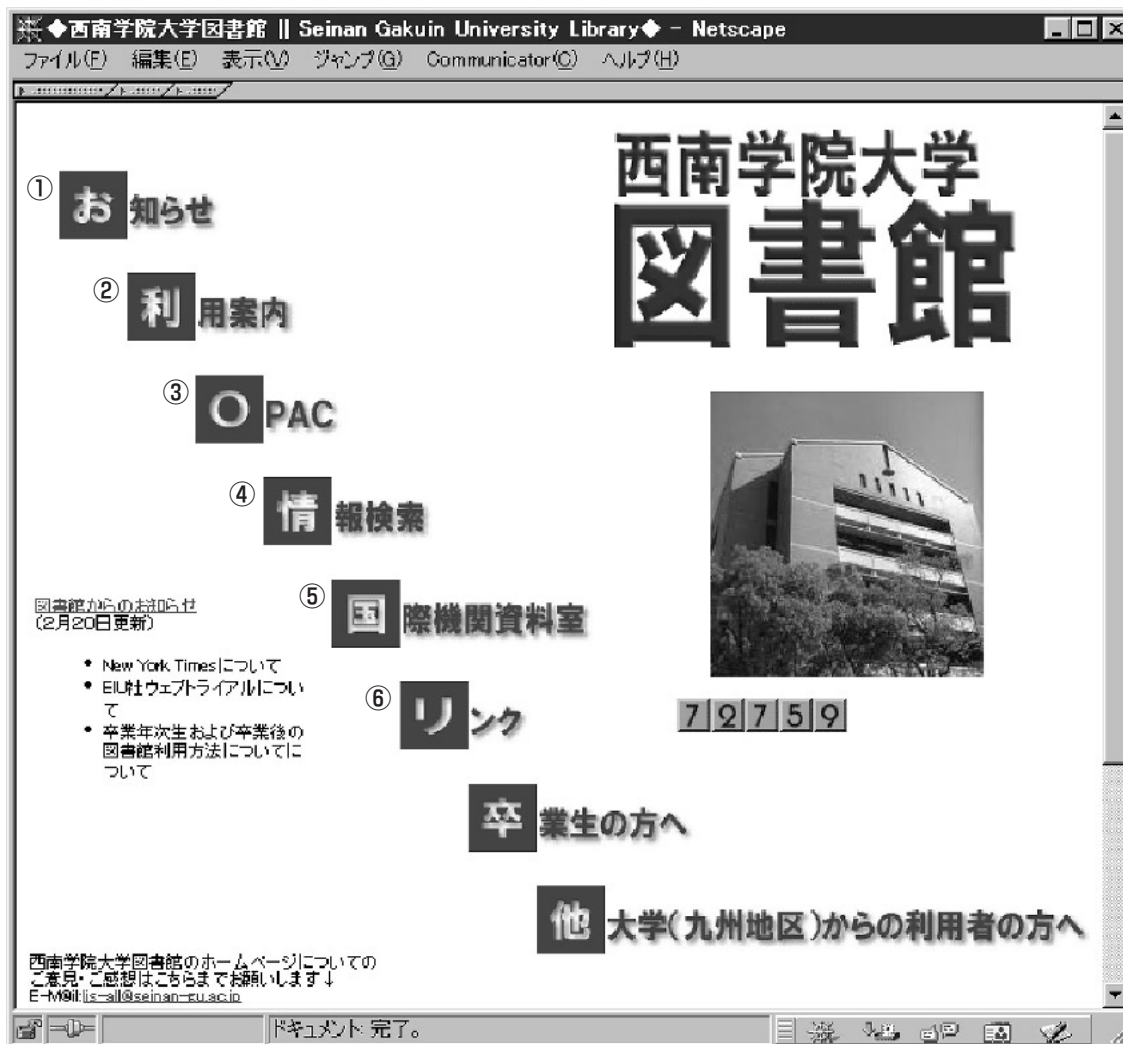
5 【情報と研究】

図書館は情報の宝庫である。ただその情報は、一応は、図書館という施設内の個々の図書や雑誌に、しかもそれらの収集・収蔵管理・利用提供などに限られている。情報社会では、情報通信技術の急速な進歩やその領域の拡大によって、膨大な量の情報が生産・流通するようになった。図書館もこの潮流に無関係ではありえない。

図書館に関する研究分野に「図書館学」がある。他方情報に関する研究分野に「情報学」がある。情報学の起源は第2次世界大戦後の科学技術革命にあり、その母体はドキュメンテーション(記録資料の調製を行なう分野)といわれる。それは、情報の収集・収蔵・利用提供や、生産・分類・索引抄録レビューの作成・翻訳・加工分析・評価・検索・伝達などに関する理論的、実践的な研究分野である。

図書館学と情報学が結びついた「図書館・情報学」がすでにある。大学図書館の場合、記録資料という知識・情報の利用者である教員・職員・学生と情報技術をどのように結合させ整合させるか、情報社会の進展に応じた対応の研究が日々要求される[了・3月1日記]。

西南学院大学図書館ホームページの解剖



図書館ではホームページをとおして、みなさんにお知らせや情報サービスを提供しています。

図書館のホームページにはどんな情報が入っているのかのぞいてみませんか。

インターネットを使える環境があれば、どこからでもこれから紹介する情報を利用できます。

その1：基本編

例えば、図書館を利用しようと思うときに、あれ？と思うこと

- ・ 図書館に行きたいけど、その日は開いているのか？開いているのは何時までだろう？
- ・ 自分の探している本、雑誌が西南の図書館にあるのか？

こういったこともホームページから探せばすぐわかります。

どこを見ればいいのかすぐわかる人は、この基本編はとばして応用編へ。

左のページの画面が図書館のホームページ
(<http://www.seinan-gu.ac.jp/library/>)
を開くと最初にあらわれる画面（トップページ）です。上から順にどのような情報を提供しているのか説明していきます。

まず、基本編としてこれは押さえておいてほしいところです。

①お知らせ：図書館からのお知らせ（順次更新）

開館日や開館時間など、利用に関して変更があった時や、新しいサービス（新たに利用できるデータベースが増えたなど）が始まったときなどにここでお知らせしますので要チェックです。

②利用案内：利用に関してわからないことがあれば、ここをのぞいてみてください。

掲載している情報

【利用関係】

- ・ 開館時間と休館日
 - ・ 利用上のルール
 - ・ 図書の貸出と返却更新（期間延長）
 - ・ 予約
 - ・ 資料の探し方
 - ・ 閉架資料の閲覧方法
 - ・ レファレンス・サービス
 - ・ コピー（カラーコピー）
 - ・ 購入希望
 - ・ 指定図書
 - ・ 相互貸借・学外文献複写
 - ・ 九州地区大学図書館利用
 - ・ 特別利用
- （卒業後の図書館利用）

【施設関係】

- ・ 図書館のフロア案内
- ・ 学術情報検索室
- ・ 情報コンセント室
- ・ A Vコーナー
- ・ グループ学習室・グループ学習視聴覚室
- ・ キリスト教資料コーナー

③OPAC：西南の図書館にある本や雑誌を探すときはここ！



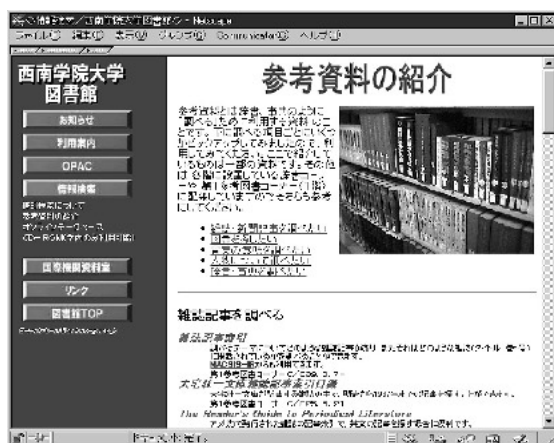
OPAC とは Online Public Access Catalog の略で、ここから図書館に所蔵している図書や雑誌について調べることができます。

図書館内には専用端末がありますが、同じ内容をホームページ上で公開しています。ですから、インターネットを使える環境があれば図書館以外の場所からでも自分の欲しい資料が図書館にあるかどうか、貸出中かどうかなどの利用状況まで調べることができます。

基本編は理解していただけたでしょうか。
では次に、基本編の知識をもとに、さらに活用して欲しい情報の紹介をします。

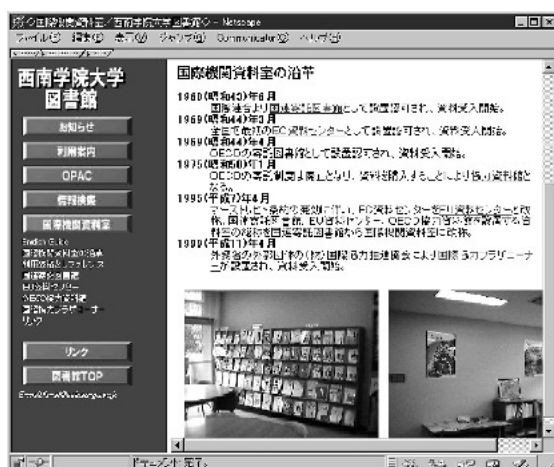
その2：応用編

④情報検索：レポートや論文など学習や研究をする際、あなたは情報をどう集めていますか？



ここでは、情報収集に役立つ紙媒体での参考図書（辞書、事典、索引等）の紹介やインターネットから利用できるオンラインデータベース、CD-ROM を紹介しています。

⑤国際機関資料室：



国際機関資料室（図書館 2 F）は国連寄託図書館（全国で14館、九州では2館）、EU資料センター（全国で20館、九州では西南の

み）、OECD の協力資料館、国際協力プラザコーナーからなっており、国際関係の資料が豊富にそろっています。

利用に関すること、資料の種類や紹介、関連機関へのリンクをここで見るができます。

⑥リンク：ここでは、資料検索や、情報収集に役立つと定評のあるホームページを集めました。あなたもこのリンク集にアクセスして情報収集をしてみませんか。

【紹介しているリンク先の分野】

- ・ 図書館
- ・ データベース
- ・ 新聞、テレビ局
- ・ 官公庁、自治体
- ・ 出版社、書店
- ・ 法律、法学
- ・ 国際機関資料室
- ・ 辞書、事典、地図
- ・ サーチエンジン
- ・ 著作権

以上、簡単ですがホームページで提供している情報の紹介です。これを機会に、ホームページを活用して学習に役立ててもらえると嬉しいです。

なお、i-Saints にも利用に関するお知らせは定期的に流しています。時期による利用時間の変更、貸出や返却に関することなどみなさんの利用についての重要なお知らせなので必ずチェックしてください。

ホームページについて
ご意見・ご案内はこちらまで

E-mail : lis-all@seinan-gu.ac.jp

大学生のときに読んで心に残った本



Edward T. Hall (1959).
“The Silent Language” (Doubleday)

文学部教授
今堀 義

この本はある意味で僕の人生を変えた。大学3年生の時に「異文化コミュニケーション」という講義で、アメリカ人教授に英語で読まされたのだが、当時何になろうか迷っていた僕が、異文化コミュニケーションの専門家になりたいと思ったきっかけの一部が、この本だった。当時それほど英語力の高くなかった僕は、いやいやこの本を開けてみたが、読んでみると難解な英語ではなく、内容もシロウトに分かりやすく、はまってしまった面白さだった。気が付きにくい文化の違いについて歯切れの良い短い文章で書かれている。例えば“Time talks.”や“Spaces speaks.”といった文に、異文化間における時空間の違いが凝縮されている。出版されて45年ほど経つが、僕の専門分野では今も必読の一冊である。原語で読むのが良いが、訳書（「沈黙のことは：文化 行動 思考」南雲堂）も出ているので、ホールの他の本（「かくれた次元」「文化を超えて」）も含めて文化に興味のある人にはオススメである。



雑誌『學鐙』より
幸田文『ひのき』

文学部講師
門田 理世

学生時代、文学の講義で「明治時代から続く」文学誌として紹介された『學鐙』で、幸田文の『ひのき』に出会った。子どもの頃、祖父の作り出す檜の鉋屑でよく遊んだ私は、その匂いを懐かしみながらそれを読んだ。短い、背筋の伸びる思いのする文章である。檜を眺めていると、その非の打ちどころがない、木としての育ちのよさに圧倒される。その前に立つと、人の心の賤しさが露呈されるようで悲しくなる、と彼女は綴っている。「賤しい心は、いいもの美しいもの立派なもの前へ出ると（中略）とたんに感動してしまう。（中略）賤しい心の中にはしばしば、嫉妬が同居している。」私は、心の賤しさを素のまま端然と語る彼女の文章に、人としての育ちのよさを認め、感動した。一本の檜を通して表現されるそれは、賤しさとは程遠い爽涼さを漂わせていた。そこに少し憧れた。以降、私は、『學鐙』に掲載されている彼女の随筆を全て読み漁った。露伴の娘として、明治・大正・昭和・平成を自由闊達に生き抜いた姿には、張り詰めた、しかし、しなやかな女性の足跡を見る思いがする。凛として新しい年度を迎えたい人に薦めたい。

ドミニク・ラピエール、ラリー・コリンズ著／
志摩隆記、ハヤカワ文庫 NF, 1977年。



『パリは燃えているか？
(PARIS BRÛLE-T-IL?)』

経済学部助教授
是永 隆文

ジーンズのバックポケットに文庫本。それが大学時代の私の読書スタイルだった。きっかけは大学までの電車通学だった。この本もそんな私の“ポケット”ライブラリの一冊である。舞台は第2次世界大戦中のパリ。この世界一美しく、陽気で、華やかな都市は1940年6月以来ナチ・ドイツの占領下にあった。そして「パリは決して敵の手に渡してはならない。もし渡すことがあれば、その時パリは廃墟となっているだろう」ヒトラーはパリ陥落の際の焦土作戦を厳命していたのである。しかしパリは奇蹟的に生き延びた。本書はこのパリ解放を1944年夏の約4週間にわたって描いたドキュメンタリーである。その最大の魅力は、英米独仏政府の軍事資料・機密文書、そして多数のパリ市民を含む数百人以上の関係者へのインタビューに基づき、この解放劇を、人々の日常生活を脚本とし、眼をカメラとする映画さながらに再現したところにある。目まぐるしく切り替わるカメラアングルに終始圧倒された。歴史・ジャーナリズムに関心のある学生にお勧めする。



井上ひさし著
『吉里吉里人』

法学部助教授
富田 麻理

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高校とは違う大学生活に希望やとまどいがあるでしょう。自分が興味をもったことを自分で極めるのが大学ということです。これは勉強に限らず、好きな本や好きな旅等に熱中することができるのも大学の醍醐味です。

もし皆さんが、日本の国内を旅行しているとき、知らないうちに別の国に足を踏み入れてしまい「旅券ば拝見してえ。」といわれたらどうしますか？井上ひさし作の『吉里吉里人』は、ある日突然日本から分離独立を宣言した東北の一寒村の「吉里吉里国」を描いた小説です。「吉里吉里語」を公用語とし、金本位制、タックス・ヘーブンの「吉里吉里国」をとおして現代日本の問題を面白おかしく描いています。

この小説は、大学時代の国際法の教科書の一冊でした。しかし堅苦しいものではなく「吉里吉里国」の分離独立をめぐる数日を描いたSFです。授業では、分離独立を国際法的に検討しました。国際法は、簡単にいえば国家と国家の条約です。領土・人民・政府が国家の要件と考えられています。これに、他の国家によって「国家ですよ」と「承認」されなければならないという第四の要件があります。日本国は、「吉里吉里国」をどこかが国家承認するのではないかと焦り様々なことを企てます。結末は？それは読んでのお楽しみです。

お知らせ

◎ 4月～9月休館日

4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

※夏季休暇中（7/11～8/31）は開館時間が変わります

◎図書館の利用案内について

1階受付では、OPAC 端末の操作方法や図書・雑誌などに関するさまざまな質問や問題を解決するための支援を行っています。

◎指定図書について

指定図書とは、講義担当の先生が科目に関連のある参考図書を特に指定したものです。開架2階にコーナーを設けていますので利用してください。

◎教育実習、卒業論文のための長期貸出

教育実習や卒業論文作成に使用する資料は、通常の貸出とは別に長期の貸出ができます。カウンターでその旨申し出てください。

教育実習用 5冊 45日間

卒業論文用 5冊 30日間

◎視聴覚コーナーについて

カセットテープデッキ、ビデオデッキ、DVD プレイヤーなど増設しました。皆さんの利用をお待ちしています。

◎休憩室を設けました

2階、4階の喫煙室を禁煙とし、休憩室にしました。煙草の煙のないところで、ゆっくり休んでください。

◎喫煙室について

1階、3階を喫煙室としています。喫煙室以外での喫煙を固く禁じます。

◎カラーコピー機の設置について

2階のコピーコーナーにカラーコピー機を設置しました。利用を希望される方はカウンターに申し込んでください。（1枚50円）

◎閉架図書の利用について

図書館には開架に配架されている図書の約3倍の図書が閉架にあります。この閉架図書が帯出できること

を知らない人が意外と多いようです。

検索機（OPAC）で調べた図書の所在が「閉架」となっている図書もカウンターに申し出て大いに活用してください。

◎夏季休暇貸出の実施

夏季休暇に伴う長期貸出を実施します。

受付期間 6月26日（木）～8月16日（土）

返却期限 9月1日（月）

貸出冊数 5冊以内

◎盗難に注意しましょう

館内で盗難が発生しています。発生状況は休憩室やSAINS ルームを利用するために荷物を置いたまま長時間席を離れたとき、居眠りしているとき、本の取り出しやトイレ等で“ほんのちょっと”席を離れたときのようなようです。

図書館では盗難防止のため、2階に荷物用のロッカー、1階に貴重品用のロッカーを設置しています。

編集後記

今回は、「大学生のときに読んで心に残った本」を取り上げました。現在、図書館には皆さんが直接手にとって閲覧できる図書資料だけでも約23万冊あります。目的とする図書を閲覧するだけではなく、書架を散策してみると、人生観や物の見方、考え方に少なからず影響を及ぼす意外な図書に出会う機会を得られると思います。是非、図書館に足を運んでいただき、皆さんの知的財産をますます増やしていきましょう。

(I. A)